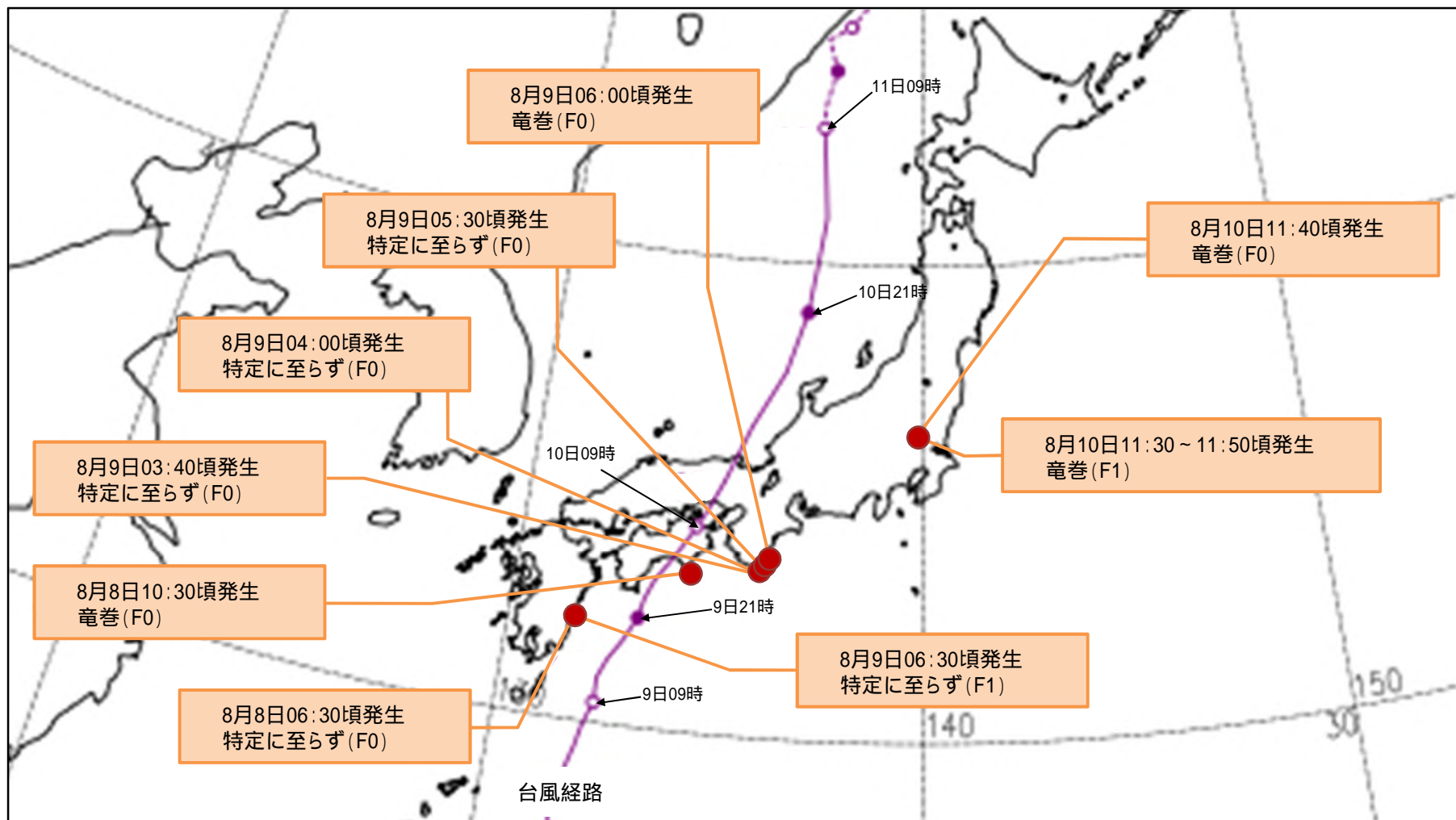


台風第11号に伴い発生した竜巻等の突風発生状況 (2014年8月8日～10日)



突風の現地調査結果 (2014年8月8日～10日)

発生場所	発生日時	現象区別	藤田 スケール	被害幅 (m)	被害長さ (km)
宮崎県児湯郡新富町	8月8日06時30分頃	特定に至らず	F0	30	0.2
高知県室戸市	8月8日10時30分頃	竜巻	F0	50	0.2
和歌山県東牟婁郡串本町	8月9日03時40分頃	特定に至らず	F0	150	0.4
和歌山県東牟婁郡串本町	8月9日04時00分頃	特定に至らず	F0	50	0.3
和歌山県新宮市	8月9日05時30分頃	特定に至らず	F0	150	0.8
三重県熊野市、南牟婁郡御浜町	8月9日06時00分頃	竜巻	F0	200	2.3
宮崎県児湯郡高鍋町、新富町	8月9日06時30分頃	特定に至らず	F1	50	0.3
栃木県栃木市、下都賀郡壬生町、鹿沼市	8月10日11時30分から11時50分頃	竜巻	F1	600	15.0
栃木県鹿沼市	8月10日11時40分頃	竜巻	F0	200	1.8

8月10日の栃木県における突風の調査結果



【参考】藤田スケールと風速等の対応

スケール	風速	被害
F0	17～32m/s	テレビアンテナなどの弱い構造物が倒れる。小枝が折れ、根の浅い木が傾くことがある。非住家が壊れるかもしれない。
F1	33～49m/s	屋根瓦が飛び、ガラス窓が割れる。 ビニールハウスの被害甚大。根の弱い木は倒れ、強い木は幹が折れたりする。走っている自動車が横風を受けると、道から吹き落とされる。
F2	50～69m/s	住家の屋根がはぎとられ、弱い非住家は倒壊する。大木が倒れたり、ねじ切られる。自動車が道から吹き飛ばされ、汽車が脱線することがある。
F3	70～92m/s	壁が押し倒され住家が倒壊する。非住家はバラバラになって飛散し、鉄骨づくりでもつぶれる。汽車は転覆し、自動車はもち上げられて飛ばされる。森林の大木でも、大半折れるか倒れるかし、引き抜かれることもある。
F4	93～116m/s	住家がバラバラになって辺りに飛散し、弱い非住家は跡形なく吹き飛ばされてしまう。鉄骨づくりでもペシャンコ。列車が吹き飛ばされ、自動車は何十メートルも空中飛行する。1トン以上ある物体が降ってきて、危険この上もない。
F5	117～142m/s	住家は跡形もなく吹き飛ばされるし、立木の皮がはぎとられてしまったりする。自動車、列車などがもち上げられて飛行し、とんでもないところまで飛ばされる。数トンもある物体がどこからともなく降ってくる。

Fスケール(藤田スケール)とは、竜巻やダウンバースト等の風速を、構造物などの被害調査から簡便に推定するために、シカゴ大学の藤田哲也博士により1971年に考案された風速のスケール。